

中学校セカンドスクール



第一中学校

10月5日～10月9日(4泊5日)

○日程表

10月5日(火)		10月6日(水)		10月7日(木)	
	一中校庭集合・出発式	6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
7:45	調布インター	7:00	朝食	7:00	朝食
10:40	豊科インター	8:30	退館式、出発	8:15	民宿を出発
11:20	国営アルプスあづみの公園	10:00	林業体験Ⅰ 下草刈り 枝打ち、チェーンソー	8:45	八方尾根トレッキング 八方池
11:50	昼食(弁当)	12:00	昼食	12:45	昼食
13:00	学級ごとのプログラム ビザづくり、生き物の森観察、 ネイチャー体験	13:00	林業体験Ⅱ 薪割り、丸太切り	14:00	ジャンプ台見学
16:35	ホテル着、入館式 入浴、休憩	15:45	民宿入村式	16:00	民宿到着 郷土料理体験
18:45	夕食	18:00	夕食作り	17:00	入浴、夕食
20:15	レクリエーション	18:30	夕食、入浴	19:00	民宿の方との交流
21:30	就寝準備	20:00	民宿の方との交流	21:30	就寝準備
22:00	就寝	21:00	就寝準備	22:00	就寝
		22:00	就寝		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・「白馬の環境に学べ」という総合的な学習の時間のテーマを設定し、事前学習を実施した。
- ・各教科との連携
 - 国語：民宿農家に、自己紹介カードを作成し事前に送付した。
 - 総合：長野県や白馬村の地域の特徴や、白馬村を中心とした産業について、班ごとにテーマを決め、そのテーマに沿ってサブテーマを決め個々に調べ学習をした。
- ・セカンドスクール実施3ヶ月前に、民宿農家の代表の方を学校に招き、白馬村の地域や産業の概略について実際の農作業の方法や作業内容の説明を受けた。また、観光パンフレット等を活用して、地域の特徴、林業について丁寧でわかりやすい説明を受け、セカンドスクールに臨む心構えや興味関心が高まった。

長野県北安曇郡白馬村

参加人数 男子54名 女子60名
計114名

10月8日(金)		10月9日(土)	
6:00	起床・健康観察・寝具整理	6:00	起床・健康観察・寝具整理
7:00	朝食	7:00	朝食・出発準備
9:00	農作業体験 稲刈り	8:15	わら細工実習
12:00	昼食	11:25	昼食(白馬五竜スキー場にて)
14:30	農作業体験 芋掘り	12:00	閉村式
17:00	入浴、夕食	12:25	白馬村出発
19:00	交流会	13:30	豊科インター
22:00	就寝準備	16:30	調布インター
22:30	就寝	17:15	学校到着・解散式 解散

② 事後の学習内容

・事後学習の取り組み

5日間の体験の紹介や民宿における活動などを、班ごとに模造紙(2枚)にまとめ上げた。さらに、第一中学校の総合的な学習の時間の取り組みとしてのポスターセッションの中で、「環境」をテーマとして「白馬に学び武蔵野市の環境を考える。」という取り組みに関連づける。

・事後交流会

お世話になった、すべての農家の方々を学校に招待して、「事後学習」の報告会を行い、農家の方からいただいたもち米を使用して、餅つき大会を催した。その中で、生徒がお世話になった農家の方々への感謝の気持ちを表すとともに、セカンドスクール後に成長した姿を披露することができた。また、交流会の運営では保護者の協力も得られ、8年にわたって行われてきた交流会をさらに充実させることができた。



【事後交流会】

○特色ある学習内容

1、農家民宿泊

民宿泊を3泊連続して実施した。その結果、農家の方々との交流と親睦がより深いものになった。また、農業体験でも農家ごとに「稲刈り」「畑仕事」「さつまいも掘り」など、組み合わせを考え、少人数で取り組めるようにし、作業内容の質と量を充実させた体験を実施することができた。さらに、郷土料理体験においても、「そばクレープ」「そば打ち」「おやき」「おはぎ作り」など、農家ごとに取り組み手順や工夫を凝らしている。また、「わら細工」体験の様子は、生徒も積極的であった。

各農家にお世話になった生徒の人数が少人数であったため、一人一人の作業内容を質と量で向上させることができたので、生徒にとって大変貴重な体験になったといえる。その一面としては、農家の方々の受け入れが8年目を迎えたこともあり、生徒に対する対応のノウハウができていたことが大きな要因であると思われる。さらに、JA大北をパイプとして学校側と農家の方々との事前打ち合わせを充実させたり、体験活動の様子をこまめに見て回れたりしたことが、例年以上に生徒の体験活動内容の充実につながったと思われる。

2、トレッキング

今年度は、「八方、第一ケルン」へのコースを学年全体で実施した。各学級、民宿のご主人1名ずつで引率しながらのトレッキングであった。教員は、途中と最後尾から生徒全体のフォローをし、事故防止に努めた。その中で、トレッキング途中では、弱音をなく生徒もいたが目的地に到達することができ、「自然を大切に作る心」が育ったと思う。また、負傷者等2名もリフト終点まで参加し、周辺を散策しながら待機し、昼食後、合流し、後のプログラムに参加した。

3、林業体験

昨年度につづき生徒一人一人の体験活動における内容の質と量を充実させることができた。実施場所は「中谷郷」という山間で、「下草刈り」「枝打ち」「丸太きり」「チェーンソー体験」「薪割り」の一連の作業である。

この体験活動では、生徒が指導員の方々の丁寧な指導のもと、一人一人に「鎌」や「のこぎり」が配られ、森を守るための「下草刈り」などの作業に関わり充実した活動となった。また、体験活動に汗を流して一生懸命取り組めたおかげで、地域で採れたきのこを利用した「きのこ汁」などの昼食を、より一層おいしく食べることができた。



【林業体験】

4、白馬村オリンピックジャンプ台

オリンピックの会場であり、スタート地点の高さにびっくりしたり、リフトに乗りながらすぐ近くを空高くジャンプしている選手を想像したりして、普段体験できない貴重な体験をすることができた。

○生徒の感想

- ・この5日間、普段は体験できないようなことがたくさんできた。それは、多くの人の協力があったからこそできることなので、セカンドスクールに関わって下さった多くの人に感謝したい。
- ・長野で見た美しい大自然を、これからも守り抜くための自分でできる取り組みをしたい。
- ・班員全員が協力しないと物事がうまく進まないことを、身をもって経験しました。これからの生活も、みんなで協力しなければと思いました。

○保護者の感想

- ・民泊を主とした体験活動や事後の交流会を通し、人と人とのつながりや絆が深まったようで、家庭での会話も増えたとの感想が多かった。

○総合的な学習の時間との関連について

本校の総合的な学習の時間における「環境」を学ぶ上でのステップとして有効な手立てになった。特に、事後の交流会での発表では、班ごとに様々に工夫した発表が見られ、特に、劇の形式での「方言」は、注目を集めていた。セカンドスクールの本体の中に「発表会」を取り入れることが、生徒たちに「言語力」「発表力」を向上させるとともに、12月のポスターセッションに継続できるものと確信できた。12月のポスターセッションに向け、さらに学習内容を深めさせたい。

○小学校セカンドスクールとの関連について

「楽しい思い出」の多い小学校での体験活動から、教科との関連を意識した学習や決して楽とは言えない農業や林業の労働体験を含めた中学生らしい体験活動に発展させていくことが大切ではないかと考えている。

○次年度に向けての反省・課題

- ・農作業などを含め、宿ごとの生徒の自主的な活動をより踏み込んだ体験活動として農家の方々と検討のうえ、第一中学校らしいものを確立したい。
- ・農家の方々との、事前学習と事後学習（交流会）を、今後も継続して実施したい。

第二中学校

5月25日～5月29日(4泊5日)

○日程表

5月25日(火)		5月26日(水)		5月27日(木)	
7:00	学校集合・出発式				
7:30	出発 所沢ICより関越自動車道 塩沢石打IC下車 浦田へ				
12:00	体験交流施設 着 昼食			9:00	農家とのお別れ会
13:30	開校式 田植え体験			9:10	伝統料理体験
16:00	対面式(体験農家)			14:00	林業体験
16:30	各農家へ移動			16:40	宿舎(千歳)着
				19:00	夕食
				20:00	現地学習「温泉の利用」
				21:00	室長会、部屋会議
	農家泊		農家泊	22:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・ 現地での活動内容や新潟県十日町市周辺のクイズを作成し、興味関心を持たせた。
- ・ 松之山地区の模型と実地踏査での写真、昨年度のセカンドスクールの写真などを空き教室に展示し、見学させ、イメージ作りを行った。
- ・ 「セカンドスクールお勉強新聞」と題し、プリント学習を行い、事後学習での自分のテーマを決め、質問内容や現地で収集したい資料・資料用写真撮影などの検討
- ・ お世話になる農家の方への自己紹介カード作成
- ・ 美術科の授業にて自然観察スケッチの仕方を学習

新潟県十日町市松之山

参加人数 男子48名 女子44名
計92名

5月28日（金）		5月29日（土）	
6:30	起床	6:30	起床
7:30	朝食	7:30	朝食
8:30	出発		
9:00	大現寺高原着、自然観察ハイキング	9:00	閉校式 森の学校キョロロと美人林 見学
11:30	昼食 自然観察、天候不良のため自然スッチは未実施	11:00	松之山 発 塩沢石打ICより関越自動車道
14:00	出発 宿舎着		昼食（赤城高原サービスエリア）
16:30	入浴		所沢ICより一般道へ
19:00	夕食	15:30	学校 着
21:00	温泉利用についての講話	16:00	合同学活後 解散
22:30	消灯		

② 事後の学習内容

- ・お世話になった農家へのお礼状作成
- ・しおり（学習と記録のページ）の完成

毎日の学習と記録のページに体験したこと・気がついたこと・わかったこと・質問したこと等をまとめる。「学習テーマについて」「農村生活体験において体験したこと・農家の人とのふれあいから感じたこと・質問したこと」などその日の活動内容に沿って記入できるようになっている。

- ・感想文を書く。
- ・新聞作成とポスターセッション形式の発表会

事前に学習していったことやセカンドスクールでの実体験より、各個人で課題を設定し、収集した資料・写真・パンフレットやインターネット・図書館等で収集した情報、現地での経験やインタビューなどを活用し、新聞を作成。

班新聞形式にまとめ、新聞を使い、学級内発表後、ポスターセッション形式の学年発表会を行った。保護者にもお知らせし、見学していただいた。

「ことば力」を養うという観点から、発表するだけでなく、質疑応答を大切に行った。

○特色のある活動内容

< 自然体験活動 >

1、自然観察ハイキング

現地の講師の方と共に大現寺高原を歩いた。小雨まじりの天候であったため、安全面より展望台までは行かず、森の分かれ道というところで折り返すコースをとったが、15人程度のグループに講師の方がついてくださり、ブナ林などの植物や動物などの話を随所に見聞きしていった。自然の豊かさや不思議さを知り、触れあうことができ、大変興味深いものとなった。

2、自然スケッチ

昨年度より実施し、今年度も実施予定であったが、もやのかかった状態でスケッチをおこなえる天候ではなかったため、中止した。自然観察ハイキングを行った大現寺高原にて、自然スケッチを行い、セカンドスクール後、持ち帰りに色つけ等を行う予定であった。事前にスケッチについて美術科の授業で取り組んだだけに、残念であった。

< 学習体験活動 >

1、田植え体験

小学校で、田植えを経験したが、田んぼに入ることができない生徒がほとんどであった。初めは緊張していた生徒も地域の方にご指導いただきながら、夢中になって田植えを行っていた。



【田植え】

2、農作業体験

農村生活体験を男女別の班を作り、各農家に分かれて行ったが、それぞれの農家毎に農作業体験も行った。

山菜採り・育苗箱洗い・田植え・畑の雑草取りなど体験した。

どの班も農家の方との触れあいの中、非常に貴重な経験をさせていただいた。

3、林業体験

あいにくの雨の中での実施となった。一人1本ブナの苗を植えるという林業体験であった。山の斜面にスコップで穴を掘るのだが、雨による足場の悪さや硬い土に悪戦苦闘した。自然の厳しさと自然を守るために人ができること、その重要性などを考えさせることができた。

< 生活体験活動 >

1、伝統料理体験

そば打ち・あんぼつくり・こんにやくつくり・ちまき五目おこわと田舎料理・の5種類6会場に分かれ、地域の方にご指導いただきながらの料理体験であった。

2、農村生活体験

農作業体験だけでなく、農家の方とのふれあい、農村での自由時間の過ごし方など豊かな時間を過ごした。



【伝統料理体験】

< 地域の人々とのふれあい >

松之山温泉の地域の方より、温泉熱を利用した地熱発電事業化などについて話を聞き、CO₂削減など環境問題について考える機会となった。

○生徒の感想

- ・田植えを1回もやったことはなく、テレビで見ただけだった。泥の中は生まれて初めての感触ですごく気持ちが悪かったが、やっていくにつれ気持ちよくなった。頑張って植え終わったときはうれしかった。
- ・1番楽しかったのは、農家体験で、田植機に触ったり、山菜採りにいった。ウドとワラビを採り、農家の方が料理してくれた。とてもおいしかった。1番勉強になったのは、大現寺高原のハイキングだ。インストラクターの方が、少し進んでは、説明してくれた。その繰り返しの中でたくさんのことを教えてくださった。
- ・心に残ったのは、林業体験だ。地球のために木を植えるということは、とてもカッコいいと思った。セカンドスクールでは、木の大切さ、農家の人の大切さなどを知ることができた。

○保護者の感想

豊かな自然の中で、東京ではできない貴重な体験をすることができた。農村生活体験でお世話になった農家の方には、大変親切にして頂いたときいている。

○総合的な学習の時間との関連について

本校では、セカンドスクールでの活動を通し社会・自然・環境などとの関わりの中で、これらと共に生きる自分への課題を見つけ、課題を追求する能力を育てている。また、新聞をつかってのポスターセッション形式の発表会では、「ことば」による表現活動を活性化し、ことば力の向上に取り組んだ。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小中連絡協議会において、小学校のセカンドスクール等の取り組みなど情報交換を行った。活動内容に重複が少ないことがわかり、さまざまな体験をするという観点より、よかった。

○次年度に向けての反省・課題

武蔵野では、体験できない非常に貴重な経験とあたたかい地域の方とのふれあいでできたセカンドスクールとなった。雨天時の対応は、充分検討も行っていたため、大きな混乱もなく終わることができたが、長靴、丈夫なカッパ（使い捨てでない）の持参の徹底が必要と思われる。地域や農家の方は、たいへん協力的であった。これからも連携を大切にすることが必要である。

第三中学校

6月14日～6月18日(4泊5日)

○日程表

6月14日(月)		6月15日(火)		6月16日(水)		
7:35	集合・点呼	6:30	起床・洗顔・健康チェック	6:30	起床・洗顔・健康チェック	
7:40	出発式	7:20	朝食準備	7:20	朝食準備	
7:45	乗車	7:30	朝食	7:30	朝食	
8:00	出発 (談合坂SA)(八ヶ岳PA)	8:20	食後 出発準備	8:20	食後 出発準備	
12:00	ちひろ公園着 昼食	8:30	宿舎前班単位で出発	9:00	バス出発	
13:00	ちひろ美術館		小熊山に向けトレッキング	9:40	大町山岳博物館 着	
15:00	ちひろ美術館発		パラグライダー基地到着	10:40	大町山岳博物館発	
15:30	木崎湖着	12時頃	昼食・班写真	11:00	宿舎着	
16:45	開校式(公民館)	15:00	トイレ(仮設トイレ)	11:50	昼食準備	
16:55	宿舎へ移動		15:00	サンアルピナ鹿島槍スキー場	12:00	昼食
	宿舎着・入室		着		13:00	バス発
17:20	夕食準備	15:20	スキー場出発	13:30	テプロ館着、 高瀬ダム見学等	
17:30	夕食		自由時間	16:10	テプロ館発	
18:20	宿舎発		入浴	16:40	宿舎着、入浴(～17:20)	
18:30	公民館着、 校歌コンクール	17:20	夕食準備	17:20	夕食準備	
19:20	公民館発	17:30	夕食	17:30	夕食	
19:30	入浴(～20:45)	18:30	スタンプ練習(食堂)	18:20	農業講義 (各民宿の食堂)	
20:30	班長会議	19:30	入浴(20:45まで)	19:30	入浴(20:45まで)	
21:00	班会議(各民宿)	20:30	班長会議	20:30	班長会議	
21:30	就寝準備	21:00	班会議(各民宿の食堂)	21:00	班会議(各民宿の食堂)	
22:00	消灯	21:30	就寝準備	21:45	就寝準備	
		22:00	消灯	22:00	消灯	

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

図書室やPC室のパソコンを利用し、班毎にテーマ決めをした後に調べ学習を実施している。テーマの一例としては、キャンプファイヤー・飯盒炊さん等野外活動についてや、北アルプスの動植物を調べるなど理科・社会的な内容を調べる班もあった。図書やインターネットでは、思った通りの情報を引き出すことは思いの外難しく、工夫しながら情報収集をしていた。

セカンドスクール実行委員をクラスより選出し、連絡事項や事前学習について実行委員を通して班長へ、最終的には生徒個人へ伝達するということの大切さも盛り込むよう、指導上工夫した。

長野県大町市

参加人数 男子60名 女子56名
計116名

6月17日(木)		6月18日(金)	
6:30	起床・洗顔・健康チェック	6:30	起床・洗顔・健康チェック
7:20	朝食準備	7:20	朝食準備
7:30	朝食	7:30	朝食
8:00	農業体験・農作業の準備	8:00	出発の準備
8:20	宿舎前整列出発	8:25	宿舎前整列出発
8:30	畑に到着 農業体験	8:30	駐車場到着
	大豆の苗植え・椎茸のこまうち 終了後自由時間	8:40	閉校式
12:00	昼食(宿舎)	8:50	出発
13:00	食堂集合 ブルーベリージャム製作体験	9:30	国営アルプスあづみの公園着
13:50	宿舎前整列出発		おやき・トロトロ石器製作体験
14:00	B&Gセンター着 そば打ち体験	11:30	昼食
15:30	宿舎着	12:10	集合・バス乗車
15:40	スタンプ練習入浴(～17:20)	12:25	国営アルプスあづみの公園発
17:20	夕食準備	13:00	スイス村でお土産
17:30	夕食	13:30	スイス村発
18:20	キャンプファイヤー準備		トイレ休憩: 八ヶ岳SA、談合坂SA
18:30	各民宿前集合	17:00	学校到着・終わりの会・解散
18:40	キャンプファイヤー 開始		
20:00	キャンプファイヤー終了・入浴(20:45まで)		
20:30	班長会議・班会議		
21:45	就寝準備 22時消灯		

② 事後の学習内容

セカンドスクール終了後は、すぐにはじめての期末テストが実施されるため、事後学習時間は短かった。ただし、その分作業内容は濃く、例年通り班新聞と個人新聞を作り上げ、くぬぎ祭(三中の文化祭)で展示し、学習成果を発表することができた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、小熊山へのトレッキング

本年度は天候に恵まれ、近隣の小熊山へのトレッキングが実施できた。これは朝8時に出発、途中休憩と昼食を含め、およそ7時間かかる行程である。地元の方に同行いただき、道ばたにある山菜や植物について、説明を受けた。小熊山山頂では、宿舎のある木崎湖や大町市内が一望でき、生徒達はビルや住宅地に囲まれている吉祥寺との違い、新緑の木々の香りなどを感じていた。

2、キャンプファイヤー

4日目夜は、宿舎から徒歩5分にある神社境内でキャンプファイヤーを実施することができた。レクリエーション係を中心に、司会や係の割り振りを行なった。打ち合わせ時間は非常に短かったものの、進行は全てスムーズだった。フォークダンス、スタンプで盛り上がった。

<学習体験活動>

1、校歌コンクール

初日の夜に、校歌コンクールを体育館で実施。本年度は電子ピアノを学校から持参、生の伴奏で実施した。まだ覚えたてのせい、声あまり出ないクラスもあった。他のクラスの歌声を聞き、自らのクラスのハーモニーへの改善点も気づけたと思う。

2、農作業体験

例年は田植えの体験だが、本年度は新しい試みとして大豆の苗植えとシイタケの駒打ちを実施した。大豆の苗植えは簡単そうに思えるが、班によって作業時間の差が感じられていたようである。どのように工夫したら早くできるなど、良い意味での「競争心」が芽生え、チームワークの大切さを気付けた様子だった。一方椎茸のこま打ちについては、電動ドリルへの力のかけ方のコツを体験し、加えて安全上の注意などの指導も受けた。

3、大町山岳博物館・高瀬ダム見学

2日目、日本でも数少ない山岳博物館への訪問となった。ここでは、北アルプスの動植物の特徴に関する展示のほか、登山装備などの歴史を学ぶことができる。展望室からは大町市街や北アルプスを一望することができる。動物の剥製もあり、自然の雄大さを感じ取っていたようだった。

4日目は、ロックフィルダムの高瀬ダム見学を実施。ダム自体の大きさもさることながら、ダム内部にある巨大な空間にも驚いた様子だった。東京電力の担当者による説明も中学生に分かりやすく、普段の生活にも役立つような電気の知識についても学習することができた。

<生活体験活動><地域の人々とのふれあい>

1、農業講話・そば打ち・おやき製作体験

2日目、昼食後にブルーベリージャムをつくる体験を宿舎毎で実施した。果実と砂糖をコンロで煮詰めるものであるが、初めて作った生徒も多かったようで、ジャムとして固まる過程も目の当たりにしていた。その後そば打ち体験を実施。

衛生に気遣い入念に手洗いをしてから作り方の説明を受けた。



【椎茸のこま打ちの準備】

失敗したら、食べることができなくなるためか、聞くときの態度は真剣そのもの。どの班も満足行くできあがりだった。自分たちの作ったそばは夕食時にゆであげられ、テーブルにのぼった。

最終日は国営アルプスあずみの公園で、おやき製作体験を実施。長野県名産の「おやき」が一体どのような食べ物なのかを知らない生徒が多くを占めた。

○生徒の感想

事後学習で、全員にアンケートを実施した。その結果、ほとんどの生徒が「楽しかった」という肯定的な意見を回答していた。思い出に残ったことは、トレッキング、キャンプファイヤーだった生徒が多かった。セカンドスクールで学べたことは、自然の豊かさ大切さ、団体行動の大切さ、友情について、という項目を挙げた生徒が多かった。

○保護者の感想

本年度は当初予定日から延期となった。この件で保護者からは「最終的に中止ではなく、延期して実施することができ、よかった」という声が聞かれた。延期による実施についても保護者のご理解・ご協力があったからである。御礼申し上げたい。

○総合的な学習の時間との関連について

事前学習については例年通り、総合的な学習の時間に4月下旬から実施した。関連図書やインターネットからの情報収集が主体になる。本校のセカンドスクール実施は1学期であるため、4月の年度当初から学年の教員で検討・計画している。

○小学校セカンドスクールとの関連について

本市では小学校でもセカンドスクールを経験しているので、生徒や保護者からも充分認知されている。そのため、どのように過ごしたらよいのかは、生徒自身がよくわかっている様子だった。

○次年度に向けての反省・課題

延期後は、梅雨期で気温も上がることも予想されたため、積極的な給水をするよう促した。これは屋外での活動だけではなく、室内での活動や就寝前にも声かけを行った。農業体験も例年と時期が異なったため、違う体験活動を準備していただいた。新たな活動を臨機応変に取り入れることができたのは、宿舎との連絡が綿密であったためである。宿舎をはじめ、受け入れ先担当者に心より感謝したい。

第四中学校

9月28日～ 10月2日(4泊5日)

○日程表

9月28日(火)		9月29日(水)		9月30日(木)	
7:30	市役所前集合	6:00	起床	6:00	起床
8:00	バス発	6:30	朝食準備		朝食
12:10	昼食	7:15	朝食		農業体験
14:10	うるぎ星の森着	8:15	周辺散策	12:00	お別れ式・昼食
15:30	夕食準備	12:00	昼食	13:20	稲刈り体験
17:00	夕食	12:45	うるぎ星の森発	17:30	旅館着
19:30	キャンプファイヤー		各農家へ移動	18:10	夕食
			対面式・農業体験		入浴
22:00	消灯		夕食・入浴 (農家泊)	22:00	消灯
		22:00	消灯(農家泊)		

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・個人新聞の作成
(内容) 長野県の自然、飯田市の紹介
中山道と宿場町、伊那谷の城下町
日本の稲作と長野県の米作り
長野県の木と花
天竜川と河岸段丘
四季の野鳥の種類とさえずり
- ・農家への挨拶状・自己紹介カード作り
- ・スローガン作り
- ・生活のきまり作成(服装、持ち物、など)
- ・レクリエーションについての企画・練習
- ・キャンプファイヤーの出し物の企画・練習
- ・係会による係活動内容の確認

長野県飯田市

参加人数 男子81名 女子40名
計121名

10月1日（金）		10月2日（土）	
6:00	起床	6:00	起床
7:00	朝食	7:00	朝食
8:00	旅館発	8:45	旅館発
8:40	風越山麓公園着	10:45	尖石縄文考古館着
9:00	登山開始	12:00	尖石縄文考古館発
11:30	虚空蔵山頂 休憩	12:20	昼食（おぎのや諏訪店）
13:00	風越山麓公園着 昼食	13:30	出発
15:50	旅館着	16:50	市役所駐車場着
18:00	夕食	17:00	解散
19:00	レクリエーション大会（～20:40）		
22:00	消灯		

② 事後の学習内容

- ・ 実行委員会作成のアンケートを実施しその結果をまとめた。
- ・ 農家体験を班ごとに、画用紙にまとめ、班ごとに発表した。
- ・ セカンドスクールでの体験を作文にした。
- ・ お世話になった農家へ、お礼の手紙を書いた。

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、ハイキング

飯田市北西部の郊外にある標高 1130mの虚空蔵山こくうぞうやまに登った。9時に登り始めて、午後1に降りてくるという、急ぎの行程ではあったが、達成感のある登山だった。

途中でトイレがないということで、頂上で過ごす時間を、十分にとれなかったのが残念だった。

山頂での見晴らしは素晴らしく、南アルプスと飯田市全景が見渡せた。

途中での脱落者がなく、全員で登り、無事降りてこられたことがよかった。

2、星の観察

売木のキャンプ場で、キャンプファイヤーの後、有志で行った。夏の星座の観察と星野の撮

影をした

<学習体験活動>

1、尖石縄文考古館

5日目の最終日、諏訪にある尖石縄文考古館の見学をした。最初に、ビデオでその時代の生活を学習し、館内の見学をした。その後、クラスごとに屋外にある竪穴式住居と尖石遺跡等の見学をした。

2、農業体験

今年の体験は、稲刈りだった。事前に2回ほど現地の農家の方と打ち合わせをおこなった。また、作業手順についてマニュアルをつくり、農家の方々に目を通してもらった。学校では、稲の束を結ぶ練習を、実際にしてみた。

当日は、朝から雨が降り、できるかどうか心配だったが、時間を短縮しておこなった。

打ち合わせが十分にできていたので、大きな混乱も無く終了することができた。

<生活体験活動>

1、キャンプ体験

「うるぎ星の森オートキャンプ場」で行った。自分たちでテントを張り、寝袋で寝て、飯盒炊爨をして食事をつくるという内容だった。

当日は雨天という天気予報だったので、キャンプ場の方が、事前にテントを張っていただいたことがとても助かった。季節的に寒い時期にあたるので、夜が心配であったが、無事に過ごすことができた。夜には、キャンプファイヤーをおこない、学年、学級のつながりを深めることができた。

<地域の人々とのふれあい>

1、農家泊

売木村と阿南町の29の農家の方々に、2、3日目の一泊でお世話になった。

売木村役場に集合して、各農家にわかれた。生徒たちは、農家独特の住まいを体験し、東京にはない地域特有の料理・食物を味わい貴重な経験をした。

○生徒の感想

- ・私がセカンドスクールで1番心に残っていることは農家泊です。ジャガイモの選別をして袋に詰める作業をしました。そのジャガイモは墨田区で行われたイベントで売られたそうです。それはすごいことだと思ったので1番心に残っています。
- ・4日目の登山が1番心に残っています。頂上での景色はとてもきれいでした。下山がたいへんだったのも、心に残っています。
- ・協力する大切さがわかった。大変なこともあるけど、終わったときがい気持ちいい。
- ・セカンドスクールの思い出は、キャンプです。理由はみんなでご飯をつくって、全部自分たちでやるからです。あんまりそういうのは、やらないのでいい思い出になりました。

○保護者の感想

- ・確かに自然に触れ合うのはとても良いことだと思います。小学校のセカンドと活動内容が重なる場合もあるようで小学校との連携が必要だと思いました。
- ・中学2年では、宿泊行事がないので、一年次に2泊3日、2年次にも2泊3日の宿泊行事という方法もあるのではないのでしょうか。
- ・たくさんの自然に親しみ、貴重な体験をさせていただきありがとうございました。帰ってきて、家族の会話が広がりました。
- ・貴重な体験をし、心なしか、子供が成長したように感じました。

○総合的な学習の時間との関連について

1学年の総合的な学習の時間のテーマは「共生」である。自然との共生、人との共生を考えていくことにしている。特に人との関わりについては、道徳のテーマでもある。

今回の4泊5日の生活を通して、仲間の大切さや仲間に対する思いやりを、考えて経験する機会であったと思う。この体験を今後の学校生活にいかしてほしい。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校、中学校とそれぞれで計画をたて、実践しているので、似たような内容になることも結果的にはある。今回の稲刈りについても、小学校のときに経験した生徒がいて、スムーズに取り組むことができた。

○次年度に向けての反省・課題

自然の中で生活をする、仲間と生活をする、農業体験をすることを通して、人として大切なことは何かということを考える、いい機会になったと思う。協力しあう、人を大切にする、自然の恩恵を感じるなど。

学年としても、集合・整列が速くなり、団体としての力も向上できたと思う。

問題なく稲刈りが行えたのは、農家の方々との打ち合わせが十分できたことが大きかった。来年度以降の実施に向けて、さらに努力していきたい。



【飯盒炊爨】



【キャンプファイヤー】

第五中学校

9月23日～9月27日(4泊5日)

○日程表

9月23日(木)		9月24日(金)		9月25日(土)	
7:20	校庭集合	6:00	起床	6:00	起床
7:30	出発式	6:40	体操・朝会	6:40	体操・朝会
11:45	現地開校式	10:00	上高地班活動開始	8:30	農家対面式
14:00	わさび漬け・竹とんぼ作り	15:30	上高地班活動終了	9:00	安曇野農家体験
20:30	班会議	19:30	キャンプファイヤー		昼食・夕食作り
21:30	部屋会議	21:30	部屋会議		農家の方々との懇談
22:00	就寝	22:00	就寝	22:00	就寝

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・安曇野の名産であるワサビについて、生物学者岩波洋三の説明文を用いて理解を深めた。特に、腐敗菌や病原菌に対する強い殺菌力とワサビの自己防衛力との関係について、大根や紫蘇などの他の植物を例示しながら「わさび漬け体験」のための事前学習を行った。
- ・「竹とんぼ」作りを前に、その翼を回転させることによって発生する揚力、揚力を生むための仰角の大きさ、姿勢を安定させるための軸の存在意義などを学習した。回転翼の上下で作用と反作用が生じることなどを知りながら、教科の枠を超えた学習を進めた。
- ・安曇野ちひろ美術館の見学に向けて、美術科の授業の中でちひろの筆致とその描き方を学んだ。小学校の教科書(「白いぼうし」など)にも採用された独特の色彩、微妙な色調を学ぶことで、現地での見学をより充実したものにした。
- ・実行委員会を立ち上げ、その下に生活班や行動班、さらに細分化した係組織を展開することで、生徒の自主活動の推進を図った。「生活のきまり」を定め、「レクリエーションの企画」を立てるなどして、自治活動の基本を体得した。
- ・手紙文の書き方を学び、民泊先農家先に自己紹介を兼ねた挨拶状を送ったり、接遇表現を学んだりすることで、社会の一員としてのあり方を学んだ。
- ・農家宿泊体験時での予習や事後のプレゼンテーションの事前準備として、安曇野の自然や特産物、産業等について自己学習(いわゆる調べ学習)を行った。

② 事後の学習内容

- ・安曇野個人新聞、上高地班新聞を作成し、プレゼンテーションを行った。
- ・民泊農家の方々へのお礼状を書き、事後の親交を深めた。
- ・いわさきちひろの筆致を模した水彩画を描き、絵画への造詣を深めた。

長野県安曇野市

参加人数 男子53名 女子30名
計83名

9月26日（日）		9月27日（月）	
6:30	起床	6:00	起床
7:40	お別れ会	6:45	体操・朝会
10:00	光城山登山開始（長峰山頂経由）	8:00	清掃
19:00	レク大会	9:00	ちひろ美術館見学
20:30	係会	12:45	現地閉校式
21:30	部屋会議	17:00	学校到着
22:00	就寝	17:20	解散式

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、上高地散策

上高地バスターミナルより班ごとに事前に計画を立てた散策ルートを5時間半かけて散策した。途中、事前学習した大正池や明神池、河童橋などを実地に見学し、事後学習のための記録写真を撮影した。班長を中心として計時係や学習係、美化係などが各役割を果たしながら協力して行動する姿勢は、2年後の修学旅行での活動の演習ともなる。東京の日常では味わえない大自然の美しい景観を愛で、高次な情操を養うこともできた。



【初秋の梓川を渡る】

2、光城山・長峰山登山

国営アルプスあづみの公園には、井上靖、川端康成、東山魁夷らが長峰山を賞賛したことが記されている。その山頂からは北アルプス連峰が一望でき、麓には安曇野の穏やかな風景を見下ろすことができる。今年度は生徒全員が長峰山に登頂し、川端らが感嘆した風景をスケッチした。若年層の体力の低下への懸念が叫ばれて久しいが、この活動は、自らの体に負荷をかけることで自らの力を養うという基本的な思いを確認する機会にもなっている。



【長峰山頂から北アルプス連峰を臨む】

<学習体験活動>

1、ワサビ漬け

身近な香辛料として賞味されるワサビは、刺身や蕎麦の薬味に用いられる。この安曇野の清流で栽培されるワサビと、やはり良質の伏流水を用いて醸造される清酒のもろみを搾った酒粕を併せて、「ワサビ漬け」を手作りました。

生徒たちは、江戸時代から続くワサビの歴史や栽培方法の講義を受け、グループごとに手作業に入った。根と茎を細かく刻み、酒粕に漬ける作業は、意外なほどに手際よく進められた。親に代わって台所に立つという生徒は、「普段からの修行が大切ですね」などと笑顔の中でおどけていた。古人の生活の知恵を学びながら、それぞれが暮らしを立てるための苦労や根気を感じ取ったように思われる。



【ワサビ漬体験】

2、竹とんぼ作り

「日本人の手先の器用さは『今は昔』。「このままでは日本の精密機械産業や職人芸が先細りになってしまう…」。確かに、鋸や小刀を使う家庭は減り続け、それに比例して子どもたちも細かい作業が苦手になってきている。そこで伝統遊具を作りながら飛行の原理を知り、同時に工作用具に親しむという趣旨で竹とんぼ作りを企画した。「竹とんぼ」そのものに触れたことのある生徒は少なく、当初はたどたどしく製作に取り組んでいたが、完成の見通しが立って

くると、それぞれが理想の仰角を作り出すために真剣に小刀を動かした。出来上がると、軸に回転を与え、「力作」を空中に舞い上げた。事前の講義では、「飛ぶ方向を自由に制御できる」とのことであったが、生徒の作品は「成り行き任せ」。歓声をあげながら「トンボ」を追いかける姿は日常生活ではなかなか見られないものであり、また物作りの基本を実地に体験したことは、今後の学習活動にも功利になると考えられる。



【竹とんぼ作り】

3、安曇野ちひろ美術館見学

叙情的な淡い水彩画で人気の高いいわさきちひろは、平和活動家としても有名である。見学先の安曇野ちひろ美術館は戦時中にちひろ一家が疎開した地であり、また館長はちひろのご子息でもある。幼い子供の顔を描いた絵は、「大人になれなかった弟たちに」の挿絵（米倉斉加年）に共通するものがあるらしく、事前学習で画法に触れていたこともあって、生徒たちは興味深く作品群に見入っていた。



【安曇野ちひろ美術館】

＜生活体験活動＞

1、集団宿泊体験

学校での生活も集団生活だが、食事や入浴、睡眠を共にする宿泊体験は、健全な社会人として成長する過程として欠かすことができない。お互いに心地よく生活するにはどうすべきか、みんなが支障なく活動するには何が必要なのか等々、それぞれが考え語り合う中で、生徒は徐々に社会性を身につけ、そして、他者に気を配り、思いを共有しながら人との関わりを学ぶ。食事などのマナー、人と接するときの礼儀、公衆道徳など、実地に体験しながら学ぶ機会は、学校生活の中でも限られた意義深いものであると実感できる。

2、安曇野民泊生活体験

農家での労働体験は体力とともに五感を使い、そこで先人の知恵や知識を学ぶことができる。事前学習で棚上げとなっていた疑問を農家の方に尋ねることも、堅実で豊かな心身の成長の一助となる。りんごの摘果、ワサビ掘り、野菜の収穫、自分たちの食事作りと、今後の人生の中でも経験できない貴重な体験をとおして、人と触れ合うことの大切さにも気づくことができた。農家の方々とのお別れ会で流した涙が、それらを裏付けている。

○生徒・保護者の感想

生徒は、一様に「友人関係の深まりと、農家の方々の有り余るほどの優しさを感じた」と感想を述べている。また、セカンドスクール保護者会では、「子どもが一回り大人になった気がする。子どもとの会話が弾んだ。農家の方々の温かい心遣いに感謝する。」といった声が多く聞かれた。

○総合的な学習の時間との関連について

1・2学期の総合的な学習の時間の活動の柱をセカンドスクールに置いている。各自が安曇野に関係する課題を設定し、調べ学習を行い、紙面にまとめたり人前で提示発表を行うなど、教科横断的な活動を通して、実生活に直結した取り組みを行うことができたと思われる。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校のセカンドスクールとは活動内容が重なるところがあるが、年齢や活動の深さなどの違いがあり、あえて重複を避ける配慮の必要性は感じない。実施時期についての重なりを考慮することで、多様な活動が期待できると考える。

○次年度に向けての反省

実地踏査で南安曇野農業高校との連携を探ったが、口蹄疫等の影響もあってそれを進めることができなかった。次年度は、現地の事情を考慮しながら有意義な活動を計画したい。

第六中学校

9月8日～9月12日(4泊5日)

○日程表

9月8日(水)		9月9日(木)		9月10日(金)	
7:30	二小前しろがね公園集合	6:30	起床	6:30	起床
7:40	出発	7:00	朝食	7:00	朝食
11:00	宿舎到着 開校式	8:40	出発	8:15	出発
11:30	昼食	9:00	あずみの公園 クラフト体験	10:20	上高地ハイキング
12:00	オリエンテーリング	12:30	昼食	11:15	河童橋 休憩
19:00	夕食	14:00	わさび掘り	12:10	明神橋 昼食
20:00	農作業体験講義		わさび漬け	15:00	上高地バスターミナル出発
21:30	部屋班・行動班係会議	17:30	夕食	17:20	宿舎到着
22:30	消灯	18:20	キャンプファイヤー	19:00	夕食
		21:30	部屋班・行動班係会議	21:30	部屋班・行動班係会議
		22:30	消灯	22:30	消灯

○セカンドスクールにおける学習の概要

① 事前の学習内容

- ・実行委員会組織作り
- ・教員による概要説明
 - 目標、スローガン、日程、毎日のテーマ
 - 安曇野市、農作業体験、上高地、民泊について
- ・決まりの討議、決定
- ・部屋班、行動班、民泊班、バス座席決定
- ・係会議
- ・民泊先農家の方々へ自己紹介カード作り
- ・長野県、安曇野市、上高地の「地域・自然・産業」について調べ学習

② 事後の学習内容

- ・反省アンケートの実施・集計、実行委員会による学年集会での総括
- ・感想文を書く
- ・民泊農家の方々への礼状を作成

長野県安曇野市

参加人数 男子38名 女子34名
計72名

9月11日（土）		9月12日（日）	
6:30	起床	8:00	集合
7:00	朝食		閉校式
9:00	民泊対面式	8:30	朝食
9:30	各農家へ	9:30	スケッチ
10:00	安曇野生活体験	11:30	昼食
11:30	昼食作り	12:30	宿舎出発
14:00	安曇野生活体験	17:00	二小前しろがね公園到着
17:30	夕食作り		
19:00	民泊先の方々と交流		
22:30	民泊		

- ・民泊新聞作成と体験発表（民泊で学習したこと、体験したことを民泊班ごとに新聞にまとめ、3月の学習発表会でお世話になった宿舎・農家を招待し、民泊体験発表を行う。）
- ・調べ学習個人レポート作成（セカンドスクールでの体験を通して、「地域・自然・産業」について各自でテーマを設定し、調べ学習・レポートにまとめ・発表をする。）

○特色ある活動内容

<自然体験活動>

1、上高地ハイキング

大正池から班ごとに行動し、河童橋からは右岸コースと左岸コースに分かれて明神橋まで移動した。これまでの遠足での班行動などを生かして、どの班も概ね時間を守って、明神橋まで辿り着くことができた。明神橋での昼食後、往路とは反対のコースを通過して、河童橋まで戻った。班長を中心に各個人の役割を意識しながら行動することができていた。天候も良く普段味わえない美しい景色や、猿との出会いなど、多くの生徒が大自然の壮大きさに感動を覚えた。

<学習体験活動>

1、農作業体験講義

1日目の夜に、JAあずみの職員の方、わさび農家の方を直接招き、翌日の体験学習である稲やわさびの栽培や収穫方法などについて講義をしていただいた。稲作に関する講義では、田植えをしてから出荷するまでの工程や、そのときに使う機材や器具などJAが製作したパンフレットをもとに詳しく説明していただいた。わさびに関する講義では、わさび作りに適した気候や栽培法など、簡潔にわかりやすく説明していただいた。

どの生徒もメモを取りながら、興味深く真剣に講義を聴いていた。多数の質問も出て、積極的に学習する姿が見られた。今まで知らなかった農作業の内容を理解した上で、2日目の体験活動に臨めるため、農業・作物に対しての意識が変わった生徒が多くいたようである。

2、クラフト体験（稲刈り体験から変更）

晴天プログラムでは稲刈り体験となっていたが、前日の雨により田んぼの状況が悪いため変更となった。

国営アルプスあずみの公園でクラフト体験として「とろとろ石器づくり」を行う。1班4～5人に分かれ、蠟石に自分でデザインをして、その形に削り、ペンダントにするという活動であった。数名の指導員が各テーブルで糸鋸やヤスリの使い方を丁寧に教えてくださったため、生徒たちも戸惑うことなく作業をすることができた。通常1時間のプログラムを30分延長してもらったが、それでも時間が足りないほど集中して取り組んだ。また完成した作品を、その後最終日まで常に身につけている生徒も多数いた。自分なりの作品を作りあげ、達成感を感じることでできるプログラムであった。



【とろとろ石器づくりの様子】

3、わさび掘り・わさび漬け体験

クラスごとでわさび掘り・わさび漬けの体験を行った。生徒は裸足でわさび田に入り、想像以上の湧き水の冷たさに声を上げながら、湧き水の綺麗さにも驚いていた。初めて見る生わさびにみな興味を抱き、わさび農家の大変さを実感できるプログラムであった。

わさび漬け体験は、わさび漬け自体初めて知ったという生徒も多かったが、自分の手で特産品を作るということで、完成を楽しみに活動していた。地域の特産品であるわさびを使い、加工品を作ったことで、地域産業に触れる良い体験となった。



【わさび掘体験の様子】

<生活体験活動>

1、民泊・安曇野生活体験

1班4人程度で18軒の受け入れ先にご協力いただいた。今年度は「安曇野を第2のふるさ

とにしよう」という大テーマで臨んだため、多くの生徒が民泊を楽しみにしていた。民泊先では野菜の収穫・芋掘り・お饅頭作り・米袋のラベル貼りやスタンプ押しなど、多岐にわたる体験活動を行うことができた。一泊だけではあるが、生徒たちに家族の一員として接していただき、生徒たちもその気持ちを深く受け止めていた。「新しい家族ができた」と喜ぶ生徒も多く、生活体験だけでなく、人とのふれあいという点でも大変有意義な体験である。

○生徒の感想

- ・わさび田の水が冷たくて驚いた。とても貴重な経験になった。
- ・民泊先で普段経験できないことをやらせてもらい、とても勉強になった。また安曇野に行きたい。
- ・「とろとろ石器づくり」では自分なりの宝物ができて嬉しかった。

○保護者の感想

- ・帰宅後5日間の生活を楽しそうに話してくれました。貴重な体験だったようです。

○総合的な学習の時間との関連について

年間計画の中で、セカンドスクールへの取り組みを中心に位置づけている。1学期は、長野県、安曇野市、上高地の「地域・自然・産業」について調べ学習を行った。2学期はセカンドスクールでの体験を基に地域は限定せずに範囲を広げ、各自でテーマを設定し、個人レポートにまとめる。また、民泊での体験を民泊班ごとに新聞にまとめ、3学期の学習発表会で発表会を行う。

○小学校セカンドスクールとの関連について

小学校での経験もあり、地域の中に自然と入ることができている。体験内容では小学校と重複する内容もあるが、体験しているからこそ、理解が深まり中学生として感じることもあると考える。しかし、他にも適した体験活動がないか検討していくことは大切である。

○次年度に向けての反省

セカンド全体のテーマ・毎日のテーマを与えることは、生徒への動機づけ・意識づけという点で効果的である。次年度からは教科との関わりを持たせながら、学習を深める活動としたい。特に上高地での班行動では自然観察などの時間確保が望ましい。また雨天プログラムとしていた「クラフト体験」がとても有意義な活動であったため、次年度からは最終日のスケッチに代わる晴天プログラムとすることを検討している。